

にし の やつした

西ノ谷下遺跡—古墳時代中期の玉作工房—

西ノ谷下遺跡は、JR長浦駅から南西へ約 500 mの標高約 30mの台地上に立地します。宅地造成等に伴い、平成 3、4、6、7、8、10、17、20 年度に発掘調査が行われました。

調査の結果、弥生時代後期～古墳時代前期の住居 67 軒、古墳時代中期の住居 2 軒、古墳時代前期の方形周溝墓 4 基、古墳時代後期の古墳 2 基等が発見されました。

弥生時代後期～古墳時代前期の集落が中心となりますが、注目される遺構は、第 4 次調査で発見された古墳時代中期の 2 軒の住居です。この住居では、「滑石」と呼ばれる灰褐色を呈する石を素材とした石製模造品の製作が行われていました。剣形品や双孔円盤、白玉といった製品の一連の製作工程を示す資料が出土したことからそのことがわかります。市内では平岡地区の文脇遺跡で同時期の石製模造品の工房が発見されているほか、高谷地区の大豆郷遺跡も石製模造品の工房である可能性が指摘されています。

また、発掘調査がなされないまま土地区画による土地の改変を受けている蔵波台地区において、西ノ谷下遺跡は数少ない発掘調査事例であり、この地区の歴史を考えていくうえで非常に重要な遺跡となります。

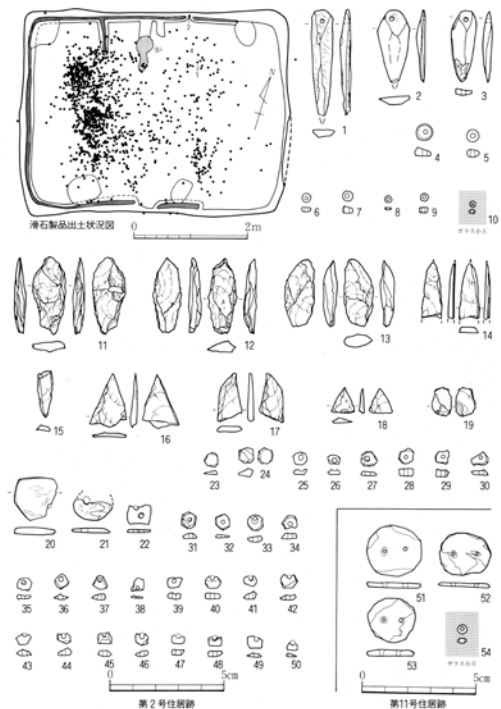


西ノ谷下遺跡から出土した土器



西ノ谷下遺跡全体図

※数値は調査次数を示す



西ノ谷下遺跡工房及び出土遺物

- 1～3 剣形品
- 6～9 白玉
- 11～50 各種未成品
- 51～53 双孔円盤